



第 15 号

平成20年(2008)6月1日発行

編集・発行
書学書道史学会
会報委員会東京都渋谷区桜丘町29-35
〒150-0031 美術新聞社内
TEL(03)3462-5251(代)
FAX(03)3464-8521(代)

「研究局」新設へ向けて

鈴木 晴彦

このうち、特に二番目の「近・現代書道史」の研究の活発化については、本学会の創立当初より提起されながらこれまでほとんど有効な手を打てて来なかつた懸案の課題で、いささか遅きに失した感もぬぐえないところです。そこで今回の研究局の立ち上げを機に、研究局 자체が研究体制を整備して本格的で継続性のある研究調査活動をスタートさせることで、学会内外に広く研究機運の醸成を促したいという狙いがあります。

こうした見地から学会ではすでに、「近・現代書道史研究調査小委員会」というプロジェクト・チームが組織され、活動を開始しています。これは平成十九年十一月十六日の第四十二回定例理事会における方針決定を受けて設置されたもので、その経緯については、『会報』第14号で報じられております。

去る三月三十日、第四十三回臨時理事会が開催されました。そこで討議されて決定された議案の中に「研究局設置の件」（第7号議案）があります。本議案が提案されたのは、次のような二つの理由からです。

一、本学会がこれからも魅力ある活発な学術団体であり続けるためには、斯学の研究活動の活性化に寄与する基盤整備事業をこれまで以上に積極的に推し進めるとともに、とりわけ次代を担う若手研究者の育成と、その研究活動の支援策を考えいかなければならぬ。

二、本学会はこれから、斯学研究の諸分野のなかでも最も立ち遅れが目立つ日本の近・現代書道史の研究をいかに活発化させるかという課題に鋭意取り組んでいかなければならない。それには現状をかんがみると、単に基盤整備を進めるだけでは不十分で、まず学会が自ら組織的な研究体制を構築して研究に道筋をつけることが有効と考えられる。

そこでこの「小委員会」のこれまでの活動についてご報告しておきますと、まず第一回の会合を本年二月一日に本部事務局で開き、当面の研究調査の内容やその方法、また役割分担について検討しました。第二回会合は同三月三十日同じく本部事務局で開き、引き続き研究調査の内容に関する詰めと役割分担、また研究組織の陣容にできるだけ若手会員等を組み入れることで、前述の「理由その一」に指摘された問題への積極的な取り組みを図ることなどを話し合いました。引き続き第三回会合を四月二十六日に本部事務局で開き、この会合にはこの分野の研究に関心をもつ院生クラスの若手数名が参加し、意見交換を行いました。

こうして小委員会は、今秋の研究局の正式発足に向けた準備を一步一歩進めておりますが、先駆け的に始動した小委員会の今後の動向と成果が、今秋以降の研究局の活動のベースとなっていくことは申すまでもありません。関係各位、会員各位のご支援をお願いいたします。

（研究局準備委員会委員長）

第19回書学書道史学会大会のご案内

事務局

第四回「書学書道史学会会員のための特別鑑賞セミナー」開催報告

第19回書学書道史学会大会は、神戸大学において以下の日程で開催されます。詳細は『第19回

(二〇〇八) 大会のしおり』(十月十日発行予定)において研究発表者の皆さんの「レジュメ」とともに「プログラム」「大会関係各種連絡事項」としてお知らせする予定ですが、現在までに固まっている大要は以下のとおりです。



○理事会=十一月二十八日(金)午後四時から、

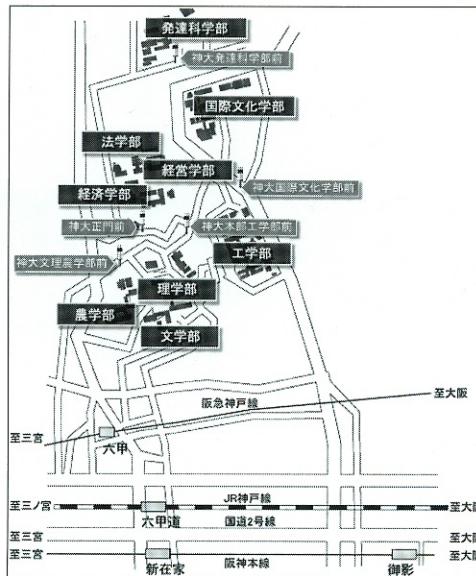
神戸市内のホテルにて予定。

○大会=二十九日(土)午前九時、神戸大学国際文化学部キャンパス内 K-202教室にて受付開始。午前九時三十分から総会、同十時四十分から午後五時まで研究発表等。

三十日(日)午前九時三十分から引き続き研究発表等。(今

年も、すべての発表は同一会場にて順次行います)

○懇親会=二十九日(土)午後五時半か



ら神戸大学キャンパス内にて開催予定。

○シンポジウム・記念講演等=未定。

○大会会場=神戸大学国際文化学部(〒六五七一八五〇一 兵庫県神戸市灘区鶴甲一-二-一)

TEL 078-803-17515

○会場への交通=JR神戸線「六甲道」駅、阪急電鉄「六甲」駅、阪神電鉄「御影」駅より神戸市営バス16系統「六甲ケーブル下」行きに乗車、

「神大国際文化学部前」下車
電鉄「六甲」駅、阪神電鉄「御影」駅より神戸市営バス16系統「六甲ケーブル下」行きに乗車、「神大国際文化学部前」下車

○宿泊用のホテル=今年会場は、神戸・大阪いずれの市内でもホテル事情は良好なため、事務局では手配致しません。各自でお早めに確保をお願いします。

○なお、理事・監事並びに幹事各位について

は、前日の理事会・準備会等の関係もあり、例年通りホテルを一定室数、手配する方針です。また今年は、前日の準備会

に幹事各位のご協力ををお願いすることになる見通しです。

恒例となつた第四回特別鑑賞セミナーは、平成二十年二月二十三日(土)の午後一時より二時間にわたり、京都国立博物館特別室において開催された。京都国立博物館での開催は、前々回につづき二回目となる。開催にご協力いただき、また列品解説を担当してくださった赤尾栄慶氏(本会会員・京都国立博物館文化資料課保存修復指導室長)には、この場をかりて心より御礼申し上げる次第である。

当日の参加者はおよそ三十名で、前回と同様に当鑑賞セミナーのために提供された特別室で、ガラスケースのない至近での鑑賞をさせていただいた。国宝三点、重文一点を含む計十一点の名品をつぶさに堪能し、極上の鑑賞会であった。

その至極の名品鑑賞リストは、以下のとおりである。

《中 国》

□十七帖(宋拓・上野本)

□〔重文〕大智度論卷第八

□経帖(明拓)

□手札五通(王鐸)

2008年度・第19回大会研究発表募集要項

今秋の「第19回書学書道史学会大会」は、神戸大学国際文化学部において別項のとおり開催されます。発表会場は今年も昨年同様に1室制とし、分科会方式はとりません。このため発表は2日間にわたる見通しで、鑑賞行事は予定しておりません。発表申し込み状況から時間的に余裕生じる場合は、シンポジウム等の記念関連行事を行う場合もありますが、大会はあくまでも発表優先とし、出来るだけ多くの会員各位の積極的な発表を期待しています。是非奮ってお申し込みください。

記

- 1) 日時：平成20年11月29日(土)、30日(日)
 - 2) 発表時間：各30分（質疑応答10分を含む）
 - 3) 申込方法：適宜の形式の「大会発表申込書」に標題・氏名を明記し、800字程度のレジュメを添えて提出してください。
 - 4) レジュメの形式：原則としてワープロで作成し、テキスト形式でCDもしくはFDに保存して、印字出力した別紙とあわせて提出してください。メール送信も受けます。その場合は、印字出力したものをおわせてFAX送信してください。
 - 5) 発表申込締切：平成20年7月17日(木) = 必着 =
 - 6) 発表者の決定と通知：大会での発表者は、学会理事会で決定し、結果を個別にお知らせします。
 - 7) 『大会のしおり（レジュメ集）』の配布：10月中旬に全会員に配布します。
- ※大会での発表については、学会誌『書学書道史研究』第19号（平成21年秋刊）への論文投稿申込みがあったものとして扱われます。改めて学会誌への投稿申込みをする必要はありません。
- ※発表者の論文原稿の締切りは、平成21年3月末日です。原稿の採否は査読委員会で決定されます。学会誌掲載についてご不明の点は、編集局まで文書でお問合せください。
- ※大会発表申込書とレジュメ（CDもしくはFD・印字添付）は、封筒に「発表申込・レジュメ在中」と明記して、下記宛にお送りください。不着事故をさけるため、配達記録郵便または宅配便をご利用ください。

〈送り先〉 〒150-0031東京都渋谷区桜丘町29-35 ヴィラ桜ヶ丘ビル7F

Tel 03-3462-5251 Fax 03-3464-8521

書学書道史学会国内局・大会運営委員会 宛



京都国立博物館での鑑賞セミナー風景

（以上二点、いずれも京都国立博物館所蔵）
なお、今回の「特別鑑賞セミナー」の案内は、初の試みとして当学会のホームページにも掲載した。ただし、参加申込受け付けについては試験運用中であったため、従前どおり事務局宛メール等での受け付けにとどまった。今後はウェブ上での申し込みも可能にしたい。

□聚楽行幸和歌巻（烏丸光広）

- 「国宝」金剛般若経開題残巻（空海）
- 「国宝」葦手絵和漢朗詠抄（藤原伊行）
- 「国宝」明惠上人歌集

- 手札（与仲野等）十二札（黄道周）
- 王世貞跋顏真卿書識語（草書四行・劉墉）
- 登黄鶴樓和畢制府韻詩（七言古詩隸書・鄧石如）
- 日本

第X期役員改選選挙の経過と結果

◎第X期役員会発足

当選挙管理委員会はこのほど、学会選挙管理規程に従つて第X期役員選出選挙を実施しました。各位のご協力に深謝致します。三月八日に投票を締め切り、開票の結果、会則規定の一〇名の選挙選出理事（別掲の役員名簿の理事長・常任理事の方々）を決定しました。

今回の選挙における投票数は過去最低となり、前回よりも二割減でした。

投票数はこれまでも減少傾向にありましたが、今回は特に大幅な減少で、規定上の問題はないとはいえ、看過できない事態です。

かつて、立候補制による役員の固定化を避ける狙いで、被選挙人としての有資格者を名簿上に表示して記述投票方式に変更した経緯があります。これにより、役員の世代交代が順次進む流れとなっていることは望ましい傾向とはいえ、投票率の低下は憂慮すべき事態と言わざるを得ません。

会の進む方向を決め運営に当たる役員を選ぶ選挙の重要性を、再認識していただきたいと思います。投票率が低いということには、比較的少數の意思によつて選挙結果が左右されかねないという危険性が伴い、選出された役員としても大多数の会員に支持されての結果ではないということにもなりかねず、組織の弱体化を招きかねない危うさがあります。

自身が参加する学会の役員を選出する選挙に自らの意思を表示する機会を放棄することは、会員としての責任を果たさないことを意味します。役員選挙は、全会員が積極的に参加してこそ、活力ある学会とするための基盤作りの機会となると信じます。二年後の次回役員改選選挙には、会員としての責任を果たし、必ず投票してくださいとするよう切望します。

（選挙管理委員会）

会 報

No.15 / 2008. 6. 1



◎

◎第X期役員会発足

任期満了に伴う役員改選選挙が、二月十五日～二月八日を投票期間として実施されました。選管による開票・当選者決定と、これに続く所定の理事選出手続きを経て、三月三十日に開かれた第四十三回臨時理事会において、「第X期役員会」が発足致しました。本期役員会の任期は、平成二十二年三月三十一日までです。（五十音順、○印＝新任）

【理 事 長】 古谷 稔（大東文化大学教授）
○大橋修一（埼玉大学教授）＝国際大会開催推進委員長

【副理 事 長】 ○中村伸夫（筑波大学教授）＝編集局長

【常任理 事】 ○萱のり子（大阪教育大学教授）＝副国内局長
○萱原晋（カリタス女子短大講師）＝事務局長

○澤田雅弘（大東文化大学教授）＝研究局準備副委員長
○河内利治（大東文化大学教授）＝国際局長

○鈴木晴彦（日本大学教授）＝副事務局長・研究局準備委員長
○森岡 隆（筑波大学准教授）＝学術局長

○横田恭三（跡見学園女子大学教授）＝国内局長
○池田利広（大阪教育大学准教授）

○大野修作（前京都女子大学教授）
○柿木原くみ（相模女子大学准教授）

【監 事】 ○菅野智明（筑波大学准教授）＝副編集局長
○下野健児（花園大学教授）
○杉浦妙子（二松学舎大学講師）＝財務委員長
○鶴田一雄（新潟大学教授）

【幹 事】 ○福田 淳（東京国立博物館学芸研究部調査研究課長）
○福田哲之（島根大学教授）＝副学術局長
○弓野隆之（大阪市立美術館主任学芸員）

○浦野俊則（植草学園大学教授）＝選管委員長
○名兒耶明（五島美術館学芸部長）

○井後尚久、○石井健、小川博章、龜田絵理香、○高澤浩一、
○高城弘一、永由徳夫、鍋島稻子、○橋本貴朗、森上洋光、
○山本まり子

＝副国際局長

第4回研究発表会開催のお知らせ

国内局

No.15 / 2008.6.1

(5)

会報

「主として学生・若手の会員に発表の場を
与え、研究の活性化と研究者の育成を図る」
という主旨、目的で始められた本研究発表
会も今年で第4回目を迎えます。

今回は日本大学百周年記念館を会場にして、下記の通り開催する運びです。奮ってご参加ください。非会員の同伴も可能です。

○日時 9月21日(日)

13:00~30 受付開始
13:12~ 開会
16:00 終了予定

○会場 日本大学文理学部百周年記念館
(新宿から京王線で10分、桜上水駅
(または下高井戸駅) 下車徒歩10分)

窺えない点を中心見ていただきたい。

2 「儒者の書にみる白居易の受容について」

日本大学大学院博士後期課程 中元雅昭

『白氏文集』は平安時代の文学や書道に圧倒的な影響をもたらしたが、近世においてはそうはいかなかった。しかし、江戸時代の儒学者たちの書跡には、白居易の詩文を題材にした作品が少なからず散見する。そこで今回の発表では、これらの作品で扱われた詩文の内容に着目し、近世における白詩受容の歴史の一端を明らかにしたい。あわせて、作品の詩と書の関係性から当時の文人の在り方についても検討を加えたい。

3 「西周金文における異形文字の考察」

大東文化大学大学院博士後期課程 角田健一

「題跋識語にみる翁方綱と李宗瀚」

東京国立博物館学芸研究部調査研究課長 富田淳

普段展示することができない巻子や冊頁の題跋識語には、興味深い内容が少なくない。ここでは清朝考証学の大師・翁方綱と、拓本の大收藏家・李宗瀚に関する題跋識語を取り上げ、その学識の一斑をうかがうとともに、二人の交誼の後を尋ねる。英和より焼け残った蘭亭十三跋を受け取った翁方綱は、その整理を李宗瀚に託した。李宗瀚の四宝や十宝は広く知られるところであるが、翁方綱の学説を承襲する李宗瀚の大コレクションは、碑学派初期に唐碑が崇尚されたさまざまな状況を伝えてくれる。

◆「アワード制」制定検討小委員会最終報告

学会が設立二〇周年記念事業の一環として導入計画を進めている「アワード制」(学会表彰制度)の在り方について種々調査研究を進めてきたアワード制検討小委員会(菅野智明委員長)では、第四十三回臨時理事会に最終報告書を提出し、作業を終了致しました。貴重なご意見をお寄せ下さった会員各位に対し、厚く感謝申上げます。

学会では、同小委報告をベースに今後常任理事会でさらに検討を進め、早期の実現を図ることで一致しました。制度の概要是今秋の総会でご報告し、○九年度から導入の計画です。

1 「董其昌の有紀年論書に見るその書法観」

筑波大学大学院博士後期課程 尾川明穂

董其昌の残した書論は『容台別集』『画禅室隨筆』に多く見られ、先学は主にそれらの記述から彼の書法観を探ってきた。しかし、両書は後人の編纂によるものであり、董其昌の真意をどれほど伝えているか疑う向きもある。

そこで本発表では、董其昌の作と確実視される有紀年論書を扱い、使用語句や各則の配列などからその書法観を明らかにすることを目的とする。特に『画禅室隨筆』との相違を確認し、同書では

西周金文の同一の銘文中ないし、同一の青銅器中における同音同義の文字は、同形、または偏・旁において相似した文字が多く見える。同一器の文字の書写については、一般的に同一人物の作業であったと考えることからも、当然の現象であろう。

しかしその中で同一文字であるにも関わらず、明らかに構造・字形の異なる文字が混在している例がみられる。一つの青銅器中に見えるもの

で、その比率としては、比較的銘文の長文化が進んだ西周中後期時代に多く見出せる。それら異なる構形を持つ同一の文字について、いくつか考察を試みたい。

平成19年度科学研究費補助金採択課題一覧（会員が関与しているものに限る）

○本会会員の採択課題に限ったが、会員が分担研究者で、代表者が非会員である場合には、※を付して代表者を末に付記した。

○複数の会員が関わる同じ課題については、当該課題のもとに代表者と分担研究者（会員）とを併記した。

○所属の後の数字は、平成19年度のみの補助金の額。

*基盤研究（B） 繼続（平成16-） 中国魏晋南北朝時代の石刻資料から見た女性と婚姻 東賢司（愛媛大学） 910千円

*基盤研究（B） 繼続（平成17-） 日唐律令比較研究の新段階 池田温（創価大学・東京大学） ※代表：大津透（東京大学） 4,030千円

*基盤研究（B） 繼続（平成17-） 近代日本における中国書画コレクションの形成に関する研究 研究分担者 富田淳（東京国立博物館） ※代表：宮崎法子（実践女子大学） 3,900千円

*基盤研究（B） 繼続（平成17-） 英仏所蔵敦煌・吐魯番出土漢文文献の古文書学の比較研究 研究分担者 鶴田一雄（新潟大学） ※代表：関尾史郎（新潟大学） 2,080千円

*基盤研究（B） 繼続（平成17-） 戰国楚簡の総合的研究 福田哲之（島根大学） 代表：湯浅邦弘（大阪大学） 3,640千円

*基盤研究（B） 繼続（平成18-） 東アジア仏教確立期における中国仏教石刻文物の資料的地域的研究 氣賀沢保規（明治大学） 5,070千円

*基盤研究（C） 繼続（平成15-） 日本と中国の地理書の比較思想史的研究 大橋修一（埼玉大学） ※代表：薄井俊二（埼玉大学） 650千円

*基盤研究（C） 繼続（平成16-） 日本金石学・金石学史の基礎的研究 石田肇（群馬大学） 650千円

*萌芽研究 繼続（平成18-） 中国北朝墓誌中の同一刻法の分布に関する研究 澤田雅弘（群馬大学→大東文化大学） 500千円

*萌芽研究 繼続（平成18-） 左利き児童のための書字教材開発に関する基礎的研究 松本仁志（広島大学） 500千円

*特定領域研究 繼続（平成17-） 寧波をめぐる絵画と人的ネットワーク 板倉聖哲（東京大学・東洋文化研究所） ※代表：井手誠之輔（九州大学） 7,800千円

*特定領域研究 繼続（平成17-） 東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成-寧波を焦点とする学際的創生-総括班 板倉聖哲（東京大学・東洋文化研究所） ※代表：小島毅 26,700千円

*基盤研究（A） 新規 建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究 赤尾栄慶（京都国立博物館） 5,070千円

*基盤研究（B） 新規 故宮博物院に収蔵される甲骨文の来源踏査—未刊本『甲骨刻辞』の解読を通して— 東賢司（愛媛大学） 2,730千円

*基盤研究（C） 新規 「高野切本古今集」全20巻の復元研究—古筆復元の方法論の確立— 森岡隆（筑波大学） 260千円

*基盤研究（C） 新規 中国近代書論の文献学的研究 菅野智明（筑波大学） 1,170千円

◆「ホームページ」の本格運用について
学会「ホームページ」（HP）について
は昨秋、今年三月末日までの期限つきで
試験運用を開始するとともに、「HP小
委員会」（鈴木晴彦委員長）を設置し、『会
報』第14号において「改良へ向けてのご
提案」を広く会員各位にお願いして参りま
した。
しかしながら、今のところ会員各位か
らの具体的な改良改善のご提案はほとん
ど寄せられていない状況です。このため
小委としましては、今なお今後の方針性
を詰めきれず、従つて本年度四月からの
本格運用は時期尚早として「試験運用」
期間をさらに半年間延長、引き続き会員
各位よりご意見や提案・希望等の聴取を
継続することに致しました。

ぜひ一度、といわず何度も学会HP
にご来訪頂き、サイトとしての使い勝手
やコンテンツ・情報の質や量、形式その
他の改善案につき、どしどしお声をお聞
かせ下さい。
なお、学会HPのアドレスは、
[http://shogakukxreajp/](http://書学書道史学会.jp/) または、
<http://shogakukxreajp/> です。
ご意見等は、次の事務局長メールアド
レスで承ります。
kayahara@kayahara.com

事務局だより

◆ 第X期役員会の発足について

任期満了に伴う役員改選選挙の結果（選管報告参照）を受けて「第X期役員会」の編成準備のための選挙選出理事（会則第10条準拠）による「緊急協議」が三月十六日、本部事務局で開かれ、理事会三役（理事長・副理事長・常任理事）を互選の上、理事長指名権一〇名の理事の選任と就任要請を行いました。その結果、選任の全員の方に就任をご快諾頂き、別項の第X期役員会の陣容（四ページ参照）が固まるとともに、これを受けて三月三十日、日本教育会館において第四十三回臨時理事会が開催されました。

◆ 第43回臨時理事会ひらく

第四十三回臨時理事会では、まず選挙選出理事を三役とする互選人事案の承認手続きののち、各局・委員会の分掌（担当局長・委員長）人事を次の通り決定しました。

- ▽国際局…局長河内利治、副局长富田淳
- ▽国内局…局長横田恭三、副局长萱原のり子
- ▽学術局…局長森岡隆、副局长福田哲之
- ▽編集局…局長中村伸夫、副局长菅野智明
- ▽事務局…局長萱原晋、副局长鈴木晴彦、同柿木原くみ
- ▽研究局準備委員会…委員長鈴木晴彦、副委員長澤田雅弘
- ▽国際大会開催推進委員会…委員長大橋修一
- ▽財務委員会…委員長杉浦妙子
- ▽会報委員会…委員長柿木原くみ

次に幹事の委嘱人事が、以下の通り決まりました。

- ▽井後尚久、石井健、小川博章、亀田絵理香、橋本貴朗、森上洋光、山本まり子（五十音順）

また、選挙管理委員については、次の六名の方々（役員委員四名、非役員委員二名）に委嘱することが決まりました。

▽浦野俊則、萱原晋、澤田雅弘、柿木原くみ、石井健、高澤浩一

今期の役員改選で理事を退任された杉村邦彦氏（68）、監事を退任された野中浩俊氏（66）を「参事」に推す人事も、決定をみました。なお、本期理事会でも理事会諮問委員を置く方針が決定され、七月に予定されている第四十五回臨時理事会までに最終的な人選と就任要請を終える予定です。諮問委員各位には、定例理事会にオブザーバーとして出席が要請されます。

◆ 「研究局」新設を理事会決定

第四十三回臨時理事会において、学会会則第十六条を改正し本部機構のなかに新たに「研究局」を設置する方針が決定されました。この間の事情は、『会報』本号の巻頭に鈴木晴彦常任理事（同局準備委員長）が詳しくご報告下さっている通りです。これにより、学会はこの長年の懸案について、単なる研究基盤の整備だけに留まらず組織としても研究に取り組み、研究者の育成にも力を入れていくことになりました。

◆ 「入会申込書（学生用）」をご利用下さい

昨秋の二〇〇七年度大会・総会で手続きの導入が改めて確認されました。「長期会費滞納者」の自動退会（除籍）手続きについては、今年度中新発足した第X期役員会が最優先課題として取り組むことになり、(1)二〇〇八年三月三十一日時点で満三年間以上会費を滞納している約五〇名の会員を対象に、(2)『会報』第15号の送付と合わせて「滞納会費納入要請書」と納入用の振替用紙を送付、(3)これに対し六月三十日までに応答のない方については同日付で自動的に除籍とするとする手続きをとります。

なお、会費滞納による除籍会員に対する会員期間の会費請求権は消滅することなく、会員台帳別表に登載して適宜納入要請を続けることが、かねてより総会決定されています。

◆ 次回理事会は7月26日（土）に開催されます

学会の第四十四回臨時理事会は七月二十六日（土）午後二時から、事務局至近の渋谷・桜丘町施設で開催します。役員各位には改めてご案内を差し上げますが、予めご予定にお入れ頂ければ幸いです。

前期課程や専攻科の方には「修了見込年次」、同後期課程の方には「満期見込年次」等の記入欄が設けられています。この年次は記入・提出後でも、本人がその都度延長、短縮を申告することができます。なお、緊急の場合等には通常の一般用の「入会申込書」でも、上記の該当事項の記入があれば、「学生（院生）会員」の入会申し込みにご利用頂けます。

また、既入会の学生会員各位については、週に状況調査を実施しますのでご協力下さい。

◆ 長期会費滞納者の「退会」手続きについて

昨秋の二〇〇七年度大会・総会で手続きの導

談話室

小中学生と毛筆

齋木久美

平成20年度スケジュール表(暫定)

3月30日(日)	第43回臨時理事会(於日本教育会館)
4月26日(土)	研究局準備委員会、近・現代小委員会会議 『会報』委員会編集会議
"	編集局編集委員会会議(於筑波大学)
4月 下旬	『会報』委員会編集会議
5月21日(水)	『会報』第15号発行
6月 1日(日)	研究局準備委員会、近・現代小委員会会議
6月 下旬	研究局準備委員会、近・現代小委員会会議
7月17日(木)	第19回大会発表申込締め切り
7月 下旬	編集局編集委員会会議
"	研究局準備委員会、近・現代小委員会会議
7月26日(土)	第44回臨時理事会(於渋谷)
8月 上旬	第19回大会運営委員会(於神戸)
9月 上旬	編集局編集委員会会議
9月21日(日)	第4回研究発表会(於日本大学文理学部)
9月 下旬	研究局準備委員会、近・現代小委員会会議
9月30日(土)	『学会誌』第18号発行
10月10日(金)	『第19回大会のしおり(レジュメ集)』発行
11月28日(金)	第45回定期理事会(神戸にて予定)
11月29日(土)	2008年度総会(於神戸大学)
11月29~30日	第19回大会(於神戸大学)
12月 6日(土)	『会報』編集委員会会議
12月17日(水)	『会報』編集委員会会議
12月25日(木)	『会報』第16号発行
12月31日(水)	『学会誌』第19号投稿申込締め切り
1月 下旬	常任理事会会議(於渋谷予定)
3月31日(火)	『学会誌』第19号原稿締め切り

小中学生の多くは毛筆に慣れていないため、頭では認識していても手が動かず表現できないことが多い。これを解決するためには反復練習が必要だが、児童生徒の集中力を持続させるために工夫が必要である。

試みに中学校一年生の行書学習で「鳥獸戲画」の模写をさせてみた。生徒たちはスマートな運筆ができるようになり、この筆運びを書字にも生かせることも実感したようであった。絵画の模写は四大名硯の一つとして位置づけられてきた。しかし、その実体は漠として明らかではなく、石質論まである。

昨年、縁あって『澄泥硯—歴史とその実体』の一書をまとめた。勿論、焼成硯としての澄泥硯である。「事実求是」の取り組みからまとめたもので、読者からは好意的な評価を得た。

焼成硯としての澄泥硯が存在し、名

の模写は運筆練習のための良い教材と言えそうである。ただ、この試行の後で文字を書かせると、字形を意識するあまりスマートさは消えてしまった。もう一段の工夫が必要なようである。

澄泥硯の実体

橋本吉文

声を博した歴史的事実は正しく評価されべきである。澄泥硯の実体が明らかとなつた今、伝世する澄泥硯に対する検討が必要となるであろう。問題提起として刊行書の後半に家蔵硯を収録した。反響を期待するとともに、加筆訂正を加えていきたい。

ケータイの絵文字 日賀野 研

最近、携帯電話の機種変更をした。メール文章を入力する際に使用できる絵文字の数が倍増したのに驚いた。これらの絵文字は、感情・動作・状態・物質など、各々が固有の意味を持っている。一瞥しただけで瞬時にその意味が理解でき、直接的な言葉を羅列するよりも遙か雄弁に意味内容を物語ってくれる大変便利な道具である。

これはまさに現代の表意文字であり、我々が文字性靈という思想のもと大切に守ってきた漢字と全く同じ機能を有しているのではないか。古代象形文字を扱う仕事をしているせいなのか、文明社会の一端でもしつかり文字文化の原点は「伝承」されているように思えてならない。

会員動静

- 中村史朗(会員) = 滋賀大学教授昇任
- 長尾秀則(会員) = 佛教大学教授昇任
- 住川英明(会員) = 鳥取大学教授昇任
- 浦野俊則(監事) = 植草学園大学教授新任
- 河野 隆(会員) = 第四十四回日展五科新審査員就任

編集後記

小中学生と毛筆

齋木久美

◆ 今期から幹事として会報の編集に就きました。書学書道史研究を志す学生や大学院生の研究への橋渡し役となるべく、つとめていきたいと考えています。(石井 健)

◆ 中国留学に向けて不要な物から整理を始めた。八年住んだアパートに帰る日も僅か、過去の思い出が蘇つてくる。ところが、買い溜めた本の山を見るといいもの、整理するのではなく、不要なものからと思いつつ、まだ使うかな?と結局整理が進まない。

◆ 〈日中書法の伝承展〉に亀田鵬齋の六曲二双屏風が陳列された。私の知り得る限り、このような大規模な企画展に鵬齋が取り上げられたのは初めてか、と思う。閉館時間が近づく頃、再度屏風の前に一人たたずむと、誇らしげな鵬齋先生から私への叱咤激励が聞こえた、ような気がした。

(藤森大雅)

◆ 教育現場での一コマ。学生からの質問。「私は自分を変えたいと思つていいます。書は人なりと言われますが、勉強して字を変えることができたら自分自身も変わりますか?」(山本まり子)

◆ モコモコと山が動き出しているかのような多様な新緑を目にする、うれしくなる。本郷通りはツツジが美しく、ベランダでは、もつこうバラ、紫蘭、おだまきが咲いている。(紫)